

平成29年度 第1回 恵庭市総合教育会議録

- 1 日 時 平成29年4月28日(金) 17:00～18:10
- 2 場 所 恵庭市民会館 第1会議室
- 3 出席者 (市長)原田 裕、(教育長)穂積 邦彦
(教育長職務代理者)宮本 春美、(教育委員)土谷 秀樹
(教育委員)尾形 直子、(教育委員)福屋 栄人
オブザーバー(副市長)北越 俊二
(北海道恵庭北高等学校 学校長)片岡 晃
(北海道恵庭南高等学校 学校長)森 浩之
事務局
(総務部長)中川 淳一、(教育部長)橋場 誠次
(総務部次長)横道 義孝、(教育部次長)有沢 伸幸
(教育部次長)内藤 和代
- 4 傍聴者 1名
- 5 議題 議題(1)学校と地域の連携について
① 市教委と2高校との包括連携協定
② 幼・保小中高等との連携によるまちづくり
③ 恵庭市における生涯学習の取組み
④ 北海道恵庭北高等学校の概要
⑤ 北海道恵庭南高等学校の概要
(2)その他
- 6 議事録内容

1. 市長挨拶

(市長)

本日は、平成29年度第1回恵庭市総合教育会議にご多忙の中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

今回で5回目となるこの総合教育会議は教育委員の皆様と、まちづくりの課題や子どもたちを取り巻く現状などを共有し、共通の認識のもと、それぞれの役割などについて議論を交わす大事な場と考えています。

今回は恵庭北高等学校及び恵庭南高等学校の学校長にも参加していただき、高校と地域の関わり方について意見交換を行い、市内から通う学生、市外から通う学生の両方の視点から3年間の学校生活を過ごすなかで、恵庭というまちをどのように見て、どのような思い出を残すか、「地域とともにある学校づくり」の実現に向け、意見交換を行いたいと考えています。市内に高校が2校あることは大変重要であると捉えており、子ども、地域、学校にとってつながりをつくっていきたいと考えているところです。

新年度が始まり、社会教育や学校教育にとって魅力的な新事業がスタートしますが、恵庭市の教育推進の基本方針に基づき、健やかな子どもの育成を目標に、教育の向上に努めて参りたいと考えていますので、よろしく願い申し上げます。

2. 教育長挨拶

(教育長)

恵庭市の教育については、総合教育会議で定められた恵庭市教育大綱に基づくとともに、恵庭市学校教育基本方針と恵庭市生涯学習基本計画に沿って進めているところであります。

特に、子どもの育成については、ふるさと教育を基盤に知・徳・体の調和の取れた教育を進めており、子どもたちがふるさと恵庭で学び育つなかで、自分自身に、そしてふるさと恵庭に、自信と誇りを持って、未来をたくましく生きていくための基礎となる確かな力を身に付けて欲しいと願っています。

地域の皆様には、読書ボランティアや通学合宿をはじめとして、学校や子どもたちへの支援を様々ないただいているところであります。

ふるさと教育を進めるためには、地域ぐるみで取り組むことが何よりも大切であり、教育委員会においても、地域とともにある学校を目指した学校運営協議会の設置や、一貫性のある教育・懐の深い教育を目指した小中連携教育推進委員会の設置などを進めています。また、設置者は違いますが恵庭北・恵庭南高校と包括連携協定を結び、さまざま連携いただいております、地域全体で教育を進めているところであります。

本日は、皆様からさまざまなお考えを伺い、地域とともにある学校づくり・夢のある学校づくりにしっかりと取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

3. 議 題

(1) 学校と地域の連携について

(事務局)：橋場教育部長

① 市教委と2高校との包括連携協定について

包括連携協定は、市教育委員会と市内の恵庭北高等学校及び恵庭南高等学校との間で、協力関係をさらに発展させるため、平成28年3月28日に締結したものであります。協定の目的は、第1条で定めた「相互に協力し、地域社会の発展並びに人材育成及び学術の振興に寄与すること」であり、連携の範囲は、第2条で定めた「教育の推進に関すること」「読書活動の推進に関すること」「青少年の育成に関すること」の3点です。恵庭北高・南高の両校との連携としては、これまでも青少年国際交流派遣事業や図書の団体貸出など多くの取組みを行っており、この包括連携協定を機に恵庭北高校とは昨年ブックライン事業を開始し、現在、恵庭南高校とも同事業について調整中であります。今後もそれぞれへの取組みに対し相互協力し、協定の目的達成に向けて進んでいきたいと考えています。

② 幼・保小中高等との連携によるまちづくりについて

資料②は、各学校の地域との連携、幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校、小中学校と高校の連携事業を一覧にしたものです。幼稚園・保育園と小学校の連携は、平成28年1月から連携推進の協力先を明確にし、各学校等に周知しており、子どもの学びを円滑に接続することを目的に、環境の変化による不安解消などの相談を積極的に対応できる体制にしています。

また、小学校と中学校の連携は、平成28年度から校長会メンバー等による「小中連携教育推進委員会」と、中学校区4つからなる「小中連携教育推進プロジェクト」を設置し、連携教育の推進について取組みを進めているところです。

③恵庭市における生涯学習の取り組みについて

資料③は、社会教育課などが中心となって実施している事業を一覧としたものであり、教育委員会のみならず、地域の方や団体に支えていただき実施しています。

「地域コミュニティ活動」では、多くの大人が関わって、世代間交流や、子どもたちの居場所づくり・自立の場を提供していただいております。

④恵庭北高等学校の概要について 学校長 片岡 晃氏

本校の生徒状況について、現在恵庭市から通う生徒が約40%、千歳市からが約45%、北広島市からが約13%となっています。札幌市やその他の自治体からは約2%であり多くは由仁町です。

卒業後の進路としては、約30%が大学へ進学し、約40%が専門学校へと進学する生徒で大多数を占めており、就職する生徒の多くは自衛官など公務員が多いのが特徴です。当校では大学進学において、入学することよりも大学を卒業した後、社会に出てからの粘り強さを身に付けて欲しいと考え、指導を行っています。

本校の特徴としては、昨年度は生徒の4人に1人が皆勤賞であり、遅刻者も少ないなど落ち着いた学校生活を送る生徒が多いことがあげられます。

今後の課題としては、情報発信がホームページのみとなっていますが、表立ったイベント等も少なく、こういった情報を発信していくか検討が必要なところです。

地域との連携については、昨年度から恵庭市との包括連携協定によるブックライン事業の導入が始まったほか、恵北中学校への英語出前授業の実施や吹奏楽部、書道部の地域夏祭り等への参加等を行っています。

今後、市内中学校の担当者との研修交流の実施など連携を深めたいと考えていますが、設置者が異なることなどから容易ではないと思います。市や教育委員会からの協力などをいただきながら検討していきたいと考えています。

⑤恵庭南高等学校の概要について 学校長 森 浩之氏

本校の生徒状況について、現在恵庭市から通う生徒が約39%、千歳市からが約27%、北広島市からが約11%となっています。札幌市やその他の自治体からは約23%と多いですが生徒の多くが体育科の生徒です。

卒業後の進路は、大学進学が約10%、専門学校への進学は約45%、就職が約45%となっており、大学進学 of 多くは体育関係の推薦が多いです。

本校の特徴は全道で唯一体育科があることであり、全道から生徒が集まってきます。1学年8クラスのうち、普通科が6クラス、体育科が2クラスあり、定時制のクラスもあります。体育科もあることからスポーツを基軸として意義付けをしており、体力は全ての活動の源となることから、体力の増強が学習面での集中力や持久力の造成にも繋がり、将来、就職したとき自分自身の財産になると生徒たちへ指導を行っています。部活においては、運動系以外にも文科系の部活も活発であり、吹奏楽部は地域のイベントで演奏

するなど活動する場をつくっているところです。

地域との連携において、恵庭市スポーツ振興基金に係る補助金を活用しているほか、部活動交流の一環として、少年団との合同練習や指導を行っており、市内中学校とは部活面での交流を実施しています。また、生徒会やボランティア部で雪かきのボランティアやゴミ拾い清掃などを実施しているところです。

現在、将来の構想を検討する委員会を発足し、研修やアンケートを通して課題を明確化することで、生徒の学力の向上やスポーツ分野における進路の実現に向けたシステムを構築したいと考えています。

当校の情報発信については、情報広報部を作りホームページの内容をもっと充実させるほか、生徒の頑張りを見える化していきたいと考えています。

今後は、恵庭市の包括連携協定をもとに当校においてもブックライン事業の実施を考え、校内での整備を進めており、市や地域と連携をもっとしていきたいと考えているところです。

【質 疑】

(A委員)

恵庭南高では普通科と体育科があるとのことだが、両者が交流する場はあるのか。

(恵庭南高校 学校長)

学校の棟が分かれており日常的に交流する場は少ないが、部活や見学旅行など一定程度の交流はある。

(A委員)

多感な時期を恵庭で過ごす生徒たちが恵庭をどう思っているか、将来的に恵庭に住みたい、働きたいと思ってもらうために市とどのように連携していくことが重要なのか、両校の生徒たちがサミットのような形で話す場があるといいと思うがいかがか。

(恵庭南高校 学校長)

体育科の生徒は部活があり参加は難しいと思うが、普通科には関心のある生徒がいると思う。まずは両校の生徒会が交流の場を持つなどしてもいいかもしれない。

(恵庭北高校 学校長)

市外から通っている生徒たちも多いため、市内に暮らす生徒たちとは違う視点で話が聞けて面白いかと思う。

(市長)

インターンシップは行われているのか。どこも人手不足であり、地元の企業や医療機関などで実施してもらえるとありがたい。

(恵庭南高校 学校長)

当校では、2年生の時に2日間に亘り全生徒が参加している。市内企業だけでは受け入れ先が不足するため市外の企業にも依頼し実施している。

(恵庭北高校 学校長)

当校では、2年生の時に2日間に亘り希望する生徒のみ参加している。就職希望者が少ないため全員参加は難しい。

(D委員)

農業関係に興味がある人を受け入れる制度などもあるが、必要な経費などは道教委で出しているのか。

(教育長)

インターンシップなどは企業PRや人材育成の観点から両者の利害が一致するとの考えから、経費等については措置していないと聞いている。

(B委員)

設置者が違うと連携が難しいとのことだが、道教委はどのように考えているのか。市から道教委に対して提案してみてはどうか。

(恵庭北高校 学校長)

道教委は積極的に連携するように言っているが、授業数は減らせず、それに係る費用も捻出できないため連携は現実的に難しい。

(教育長)

ブックライン事業を導入する際は、「本をたくさん読んで欲しい」という恵庭市の考えから道教委の負担が無いように率先して取り組んだ。出来る方がアプローチしていけばいいのではないのか。

(市長)

先ほどの恵庭北高校から話があった地元中学校の担当者との研修は実施できそうか。

(教育長)

北海道立教育研究所や石狩教育研修センターなどと連携すれば可能ではないか。

(恵庭北高校 学校長)

北海道立教育研究所が遠隔地でも研修を受けられるようオンデマンドによる配信などを行っており、そのようなシステムが構築できれば実施が出来るのではないのか。地元の中学

校の取組みなどが分かれば、当校でも同様の取組みを実施するなど検討できる。

(副市長)

設置者が異なることや、3年間で生徒が入れ替わり、教員も異動があるなど制約が多いが互いに連携しながら実施していければと思う。

(2) その他

報告事項なし

以上